

円盤状製品

出土地：普天間古集落跡・中城御殿跡・御内原北地区

円盤状製品とは、陶磁器や瓦の破片を円形に打ち割った製品で、遊具としての用途（おはじきや石蹴りなど）が考えられています。時代はグスク時代、近世、近代と長きにわたって見られます。

使用される素材は、中国産青磁や白磁、タイ産褐釉陶器などの比較的古いものから、近世の日本産陶磁器、近代の日本産陶磁器、沖縄産の施釉陶器や無釉陶器、瓦、^{せん}塼、近現代の板ガラス、^{れき}礫など多岐にわたります。

大きさによって選ばれる素材の傾向もみられ、径が小さな製品は陶磁器の破片を素材として多く用いる傾向があり、径が大きくなるにつれて、沖縄産無釉陶器や、瓦を素材として多く用いる傾向があります。

また、円盤状製品は県内各地の集落跡のほかに、次の琉球国王となる世子が暮らした中城御殿跡（県立博物館跡地）や首里城跡からも出土しています。昔の沖縄の人々はどのように円盤状製品で楽しんでいたのでしょうか。想像が膨らみますね。